

◇ 残さず食べよう！30・10運動 飲食店での食べ残しを減らす取組み

モデル店舗の取組みと効果(平成24年11月～)

- ポスター、ティッシュ、コースターによる啓発グッズの活用
- お店のチラシ、ホームページ等での紹介
- 残さず食べていただく工夫

料理を出すタイミング

(温かい物は温かく、冷たい物は冷たく、ごはん物を出すタイミング等)

メニューの工夫

(白飯から鯛茶漬へ、一口サイズ、骨まで食べれるような調理等)

お客さんへの声かけ



食べ残しが半分程度に減少

ごみの減少、片付けが楽に(人件費、水道料等の削減)

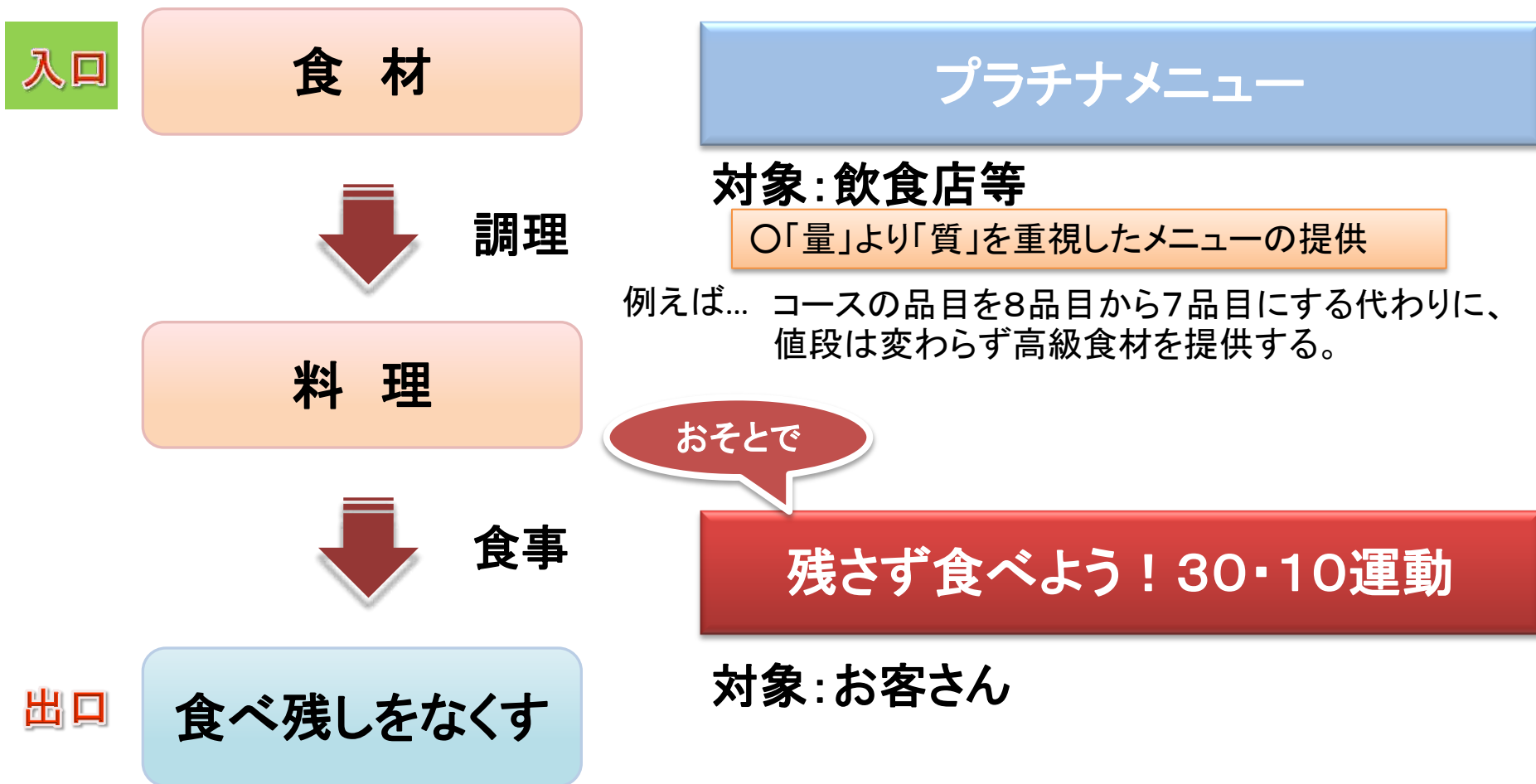
美しく生きる。



健康寿命延伸都市・松本

◇ プラチナメニュー

飲食店での食べ残しを減らす取り組み



美しく生きる。



健康寿命延伸都市・松本

◇ 家庭版 30・10運動

家庭での食べ残しを減らす取組み

- 期限切れ等による未利用食品等の廃棄を減らすため、日常の中で楽しく取り組めるキャンペーンが有効（H26.3消費者庁普及啓発方針）
- 本市でも手付かずの未利用食品、野菜の可食部が多く廃棄（H25本市調査結果）⇒ 冷蔵庫内を定期的に点検することの必要性
- 市民からもったいないクッキングの情報を望む声（H25本市調査結果）⇒ もったいないクッキングで家計にもやさしく
- 環境審議会から30・10運動の家庭版の実施について提案（H26.3）

「30・10運動」の家庭版を新たに展開

おそとで

飲食店

「残さず食べよう！30・10運動」

- 30分 ⇒ 席を立たず料理を楽しむ
- 10分 ⇒ お開き前に席に戻り料理を食べ切る

おうちで

家庭

「残さず食べよう！30・10運動」

- 30日 ⇒ 冷蔵庫クリーンアップデー**
期限の近い物、残り物を使い切り
冷蔵庫を空に
- 10日 ⇒ もったいないクッキングデー**
今まで捨てていた野菜の茎等を使う
ことに挑戦

キーワード
「30・10」

覚えやすく、
ゴロも良い

統一感を持たせることで、
食べ物に対する関心を高める

食べ残しを含めた食品ロス全体の削減へ

◇ 園児を対象とした参加型環境教育

家庭での食べ残しを減らす取り組み

キーワード 「参加型・とにかく楽しく」

食べものを作ってくれた人への感謝の心、資源の大切さを忘れない心を育むためには、幼いころから環境に対する意識を高めることが大切であることから、感受性豊かな園児を対象に参加型の環境教育を実施 対象 市立全保育園・幼稚園 年長児(全46園)

○パワーポイントを使ったクイズと説明

「捨てたものはどうなる？」

ごみとして捨てられたものはどうなるのか、分別したものは、新しい物に生まれ変わることを、パワーポイントを使いクイズ形式で説明

「食べ残したものはどうなる？」

食べ残した食品残差は焼却場で燃やされるが、食べたものは体をつくってくれる。心をこめて作ってくれた人への感謝の心が大切ということを説明

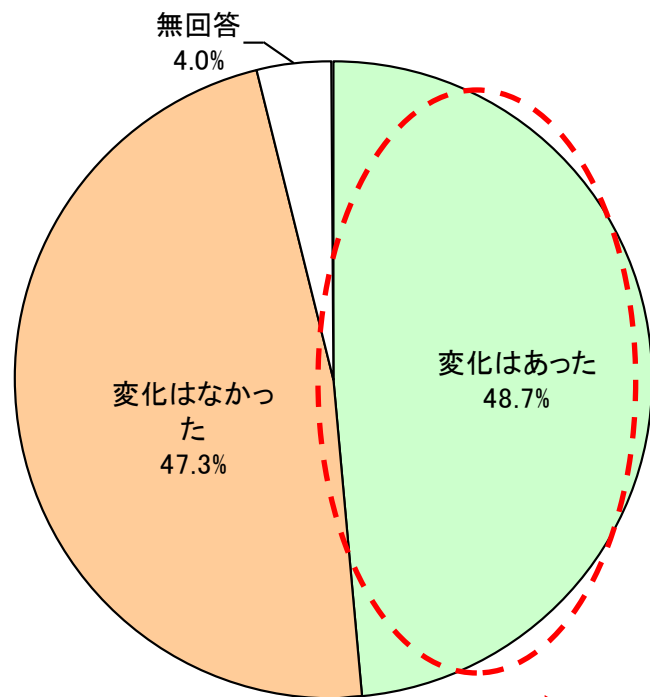


◇ 園児意識変化等調査（H25）

家庭での食べ残しを減らす取組み

環境教育後の園児の意識及び行動の変化の有無

（回答数 907人）



残さず食べるようになった

家族の食べ残しを
注意するようになった

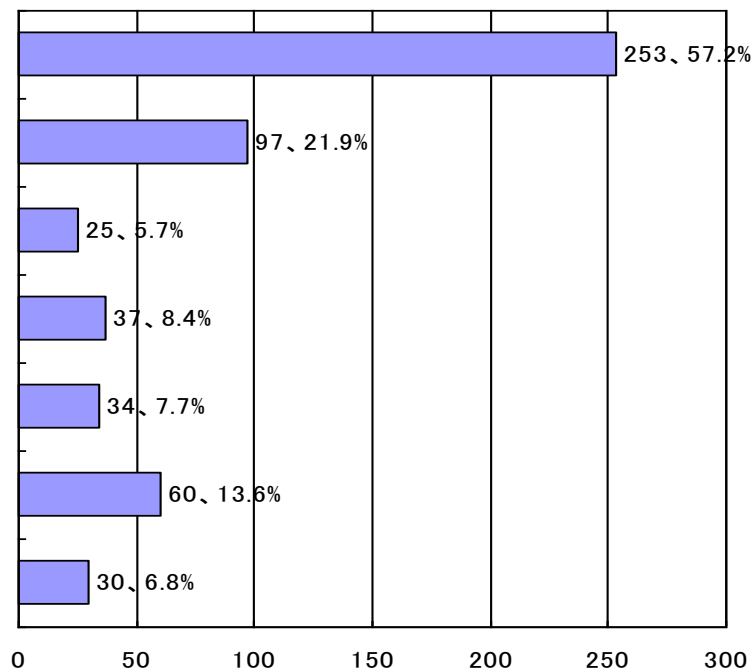
料理の作り過ぎを
注意するようになった

スーパーなどでの買い過ぎを
注意するようになった

冷蔵庫等の食材の種類・量を
気にするようになった

食品の期限表示を
気にするようになった

その他



約5割の園児に
意識及び行動の変化が見られる

美しく生きる。



健康寿命延伸都市・松本